

牡丹

小林守城

干からびた幹と枝骨
その先の小さい紫の円天蓋
豆釘のような蕾みから
褐色の海草のように葉を広げ
弱々しく生き還ってきたから
それだけでいいのに
移し替えて
今年は無理かと
思っていたのに
牡丹が続けて三輪も
崩れ落ちそうに
重たく咲き誇ってきた
そんなに
頑張らなくなたって
大きすぎて
真新しい一年生の
ランドセルのようだ
もういいよ
そつと耳打ちする

テッセン―蓮

小林守城

春先には枯れた藁の
纏れた紐でしかなかった
それでも
死んではいらないと言うから
試しに移植してみたのだが
本当に生きていたのだ
牡丹の散った庭
その片隅を掃くように
薄紫の風車を広げ
日ごとにその羽の色濃く
いくつもいくつも
見せつけて
くれるではないか
いつが花盛りなのか
わたしにはもう
決められない
それは
薄墨色の悟りの世界から
やってくるようで

牡丹

小林守城

干からびた幹と枝骨

その先に小さい紫の円天蓋の

豆鉦のような蕾みから

褐色の海草のような葉を広げて

弱々しく生き還ってきたから

それだけでいいのに

移し替えて

今年は無理かと

思っていたのに

牡丹が続けて三輪も

崩れ落ちそうに

重たく咲き誇ってきたのだ

そんなに頑張らなくなっちゃって

大きすぎて真新しい

一年生のランドセルのようだ

もういいよ

そつと耳打ちする

牡丹はやっぱり牡丹系なのだ

テッセン或いはクレマチス

小林守城

春先には枯れた藁筋の
縛れたごみ紐でしかなかった
それでも死んでいないと言うから
試しに移植してみていたのだが
本当に生きていたのだ

牡丹の散った後の庭の片隅で
薄紫の風車を広げ日ごと色濃く
いくつもいくつも立て続けに
見せつけてくれるではないか
いつが花盛りなのかわたしには
もう決められない

薄墨色の悟りの世界から
やってくるようで

「鉄線蓮」とはよく言ったものだ